

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【意義・めざす姿・性格等について】				
1	新博物館の意義としては、三重のアイデンティティの明確化とともに、地域の活性化への貢献というものもあるのではないかと。	津	A	新博物館整備の意義として、「従来の博物館活動の枠組みを超えて、地域づくりや地域課題の解決を支援し、産業・観光の振興や、自然環境の保全、地球温暖化などの地球規模の環境保全に至るまで、さまざまな課題の解決に向けて、幅広く貢献」していくこととしています。 そして、めざす姿として、そのためのシンクタンクの役割を果たすとしています。(第1章、第2章)
2	博物館整備の意義で、博物館の目的が文化振興のための手段としてとらえられている。間違いではないが、まず博物館の機能をきちんとすることで、そこから派生して文化振興につながっていくのではないかと。収集・保管、調査・研究がまず基本になれば、そこが充実してこそ教育普及、文化振興にも関わっていける。	熊野	B	「三重の文化振興方針」では、新博物館は、三重県の中核的な「文化と知的探求の拠点」と位置づけられ、県民の活動を支援するために、高い専門性を有するとともに十分な機能を発揮することが求められています。 そのため、新博物館については、収集・収蔵、調査・研究、展示・公開、教育・普及など、これまでの博物館が担ってきた基本的な機能をベースとしつつも、従来の活動の枠組みにとらわれず、誰もが利用し、参画することにより、県民とともに成長する開かれた博物館としていく取組を推進することとしています。 新博物館の機能の充実について、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
3	三重県は多様な県。生活圏、風土、歴史、文化の違いを認識した上で計画を立ててほしい。	津	A	三重は、南北に長い県土、変化に富んだ地形を有することから、気候および生物の生息環境も多様なものとなっています。また、4つの国から成っていた三重は、多様で豊かな自然環境を背景にして、地域豊かな文化を育んできました。このような状況をふまえて、三重のアイデンティティを明確にしていくことが大切であり、そのために、県立博物館は、全県的・総合的な視野で三重の過去・現在・未来を見据え、世界に向けて発信する拠点としての役割を果たしていく必要があるとし、多様な地域性を認識して、計画を立てていくよう考えています。(第1章)
4	博物館は、宝物を保管することと教育が、大きな役割である。三重県でなければ見られない宝物を、しっかりと保存してほしい。博物館は、時代が変わっても宝物によって人を感動させるもので、教育とは別次元のものである。	伊勢	A	三重の過去・現在・未来をつなぐ資産を保全・継承し、100年、200年先に引き継いでいくことは、わたしたちの未来に対する責務であるとともに、これらの資産を活用して、三重の人づくりや地域づくりに幅広く生かしていくことが大切であるとしています。さらに、新博物館は、そのための中核的な拠点として、人と地域をつなぐ役割を果たすこととしています。(第1章)
5	環境面からも自然を取り上げて、バランスを考えてもらいたい。	四日市	B	新博物館は、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える総合博物館と位置付けるとともに、自然環境の保全や地球規模の環境保全などのさまざまな課題に対して、幅広く貢献するとしての役割を果たすこととしています。また、施設についても、環境保全の大切さを発信する施設とすることとしています。 ご意見もふまえ、基本計画の中で、具体的に検討していきます。
6	ネットワークを使ってというが、人文系の博物館は県内にたくさんあるが、自然を扱った博物館は少ない。その中でいくら情報を集めても中央には集まりにくい。自然に重点を置いて構想を練ってほしい。総合博物館と言っているのはいいが、名ばかりで人文系の博物館になることのないようにしてほしい。	熊野	B	新博物館は、これまでに蓄積されてきた自然分野と歴史・文化分野の収蔵資料を継承し、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える総合博物館として、全県的な視点による総合的なテーマを設定し、計画的な活動を展開していくこととしています。 そして、総合博物館として十分機能を発揮できるようにするため、「高い専門性と経営感覚をもちリーダーシップを発揮できる館長」を配置するとともに、「専門的な能力だけでなく、県民参加型の博物館を運営し、人材育成・技術支援ができる能力、またコーディネーター能力も併せもった学芸員」を確保・育成していくこととしています。
7	総合博物館としているが、深みや専門性がなくなる気がする。	伊勢	D	新博物館の活動方針やテーマ、ネットワークなどについて、基本計画の中で具体的に検討していきます。
8	三重県に斎宮歴史博物館がすでにある。これを人文系の拠点として充実させればよい。今度の博物館は自然系を充実させねば。なぜまた人文分野を含まねばならないのか。	伊賀	D	新博物館の活動方針やテーマ、ネットワークなどについて、基本計画の中で具体的に検討していきます。
9	芭蕉は世界の芭蕉。県立博物館を芭蕉記念の博物館にしろという人もいる。自然も入れるが文化も入れる博物館を作ってほしい。	伊賀	A	新博物館の活動方針やテーマ、ネットワークなどについて、基本計画の中で具体的に検討していきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
10	素案に三重県らしさと書いてあるが、ポイントを絞って検討した方がよいのではないか。	四日市	B	<p>新博物館の基本的な性格として、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を総合的に捉える総合博物館を掲げています。</p> <p>博物館活動の方向性を分かりやすく示すような総括的なテーマについて、基本計画の中で検討していきます。</p>
11	他県でいろいろな博物館が作られているが、同じようなものを三重県で作っても人が入るか？三重県ならではの、魅力的なテーマをもった博物館にする必要がある。	伊勢	B	
12	「県民とともに」ということであれば、県民からの意見を集めて面白いテーマを取り上げ、そういうことの好きな有志を集めて考えれば、三重県独自の博物館ができるのではないか。三重県は各地域の地域色が強いので、例えば地域ごとの部屋を作って面白いことができればよいのではないか。	伊賀	B	
13	素案について、もう少し具体的なテーマが欲しい。滋賀県の琵琶湖博物館も「琵琶湖」という明確なテーマがある。総合博物館だから自然も人文もある、というのでなく逆であるべきだ。	伊賀	B	
14	県民の参画をしっかりと得られるよう、きちんとしたテーマがほしい。	伊賀	B	
15	素案「3 博物館の基本的な性格」(4)博物館資料を幅広く活用する博物館については、博物館に関心の深い人や技術を持った人だけでなく、県民の皆さんが広く使える“やさしい博物館”としてほしい。	四日市	A	子どもから高齢者まで、誰もが楽しみながら学ぶことができる博物館、何度でも訪れたい、開かれた博物館をめざすこととしています。(第3章(1))
16	自然科学と人文科学の融合を図って、より総合的なことが考えられる人間を育てる場となってほしい。	津	A	<p>新博物館は、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える総合博物館として、全県的な視点による総合的なテーマを設定し、計画的な活動を展開していくこととしています。</p> <p>また、県民一人ひとりの自己実現を支援する生涯学習の拠点として、子どもから高齢者まで、誰もが楽しみながら学ぶことができる博物館、何度でも訪れたい、開かれた博物館となるための取組を進めるとともに、三重の自然と歴史・文化を学び、体験できる機会を通じて、三重を愛する心と未来への夢を育み、感性や創造性を伸ばす場となることをめざすこととしています。(第3章(1)(2)(3))</p>
17	創造的・論理的な思考が発達するように、博物館を系統的に人間の思考の歴史、科学の歴史に合わせて作ってほしい。	津	B	ご意見もふまえ、基本計画の中で具体的に検討していきます。
18	最初は楽しみからである。そして、楽しみが学問になっていく。皆が楽しく過ごせて、知らない間に学問に溶け込んで、そして創造の世界に入っていく、そういうやり方を考えてほしい。	津	B	<p>新博物館は、県民とともに成長する博物館として、県民一人ひとりの自己実現を支援する生涯学習の拠点として、子どもから高齢者まで、誰もが楽しみながら学ぶことができる博物館、何度でも訪れたい、開かれた博物館となるための取組を進めます。</p> <p>ご意見もふまえ、基本計画の中で、具体的に検討していきます。</p>
19	外国人の方との共生、多文化の共生についても幅広く博物館でできるのではないか。	津	B	<p>新博物館では、その大きな役割として、地域づくりや地域の課題解決に対する幅広い貢献を掲げているところです。</p> <p>ご意見もふまえ、基本計画の中で具体的に検討していきます。</p>
20	環境にも配慮した、三重の産業振興をリードする博物館になってほしい。	伊賀	B	<p>新博物館は、従来の博物館活動の枠組みを超えて、地域づくりや地域課題の解決を支援し、産業・観光の振興や、自然環境の保全、地球温暖化などの地球規模の環境保全に到るまで、さまざまな課題の解決に向けて、幅広く貢献していくこととしています。</p> <p>ご意見もふまえ、基本計画の中で、具体的に検討していきます。</p>
21	年間10万人が呼べる施設を作って、既存の観光施設にも寄与すべきである。	熊野	B	ご意見もふまえ、基本計画の中で、具体的に検討していきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
22	形としてあるものを残すことも大事だが、無形のもの、文化財、まつり、神事、盆踊りなど、各地のものがどんどん消えていっている。地元で残そうとするのは当然だが、県も一役買ってほしい。今記録して残しておかないと大変なことになるのではないか。その点は、博物館の基本的な考え方に含まれているか。素案にも「地域文化の継承」と出ているので、博物館が、地域文化復活のきっかけづくりになればよい。	熊野	B	新博物館では、三重の自然と歴史・文化の資産を保全・継承し、活用するものとしています。基本計画の中でご意見もふまえ、博物館活動の内容について具体的に検討していきます。
23	国や県も、次代の夢をかなえるものが大切なものと気付くことに意義がある。山梨県博の「かいじあむ」のように、「みえじあむ」というのも考えてみたらどうか。	伊賀	B	新博物館は、三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える総合博物館と位置付けています。施設の名称は、その施設の性格を表すものであり、基本計画の中で、ご意見もふまえ検討していきます。
24	文化施設と自然の間にあるものが、博物館だと思っている。名前をつけるなら、自然に近いものにしてほしい。今の自然の状況を把握し、県の特徴を名前に生かせばよい。	熊野	B	
【次世代育成について】				
25	小さい子どものうちから、“楽しい”と思う博物館としてもらいたい。例えば、放課後に、わいわい遊べる、あそこに行けば、いろんなことを知ることができるような、金沢21世紀美術館のように小中学生に必ず来てもらえる博物館としてもらいたい。	四日市	B	めざす博物館の姿として、人間力の視点から、学校教育との積極的な連携をはかり、子どもたちが、博物館を見学したり、さまざまな活動に参加・参画したりできる機会を豊富に設け、三重の将来を担う次世代育成をはかることとしています。 また、子どもから高齢者まで、誰もが楽しみながら学ぶことができる博物館、何度でも訪れたい、開かれた博物館をめざすこととしています。(第3章(1)) ご意見もふまえ、具体的には、基本計画の中で検討していきます。
26	ソウルの博物館に行ったことがあるが、先生や地域の子供もたちがノートを広げて自由に見ている。親しまれていると感じた。研究してはどうか。	伊賀	B	
27	小さな子ども達を楽しめるクイズとか、生きているものの数をもっと増やせば、子ども達も来てくれると思います。	津	B	
28	成功している他県の博物館等は、何でもありではなく、差別化して成功している。次代を担う子どもたちに焦点をあてて、若い人にも好奇心を持ってきてもらえる博物館にしたい。	伊賀	A	
29	自分は博物館に行ったことがない。これから博物館が建てられるのはずいぶん先の話のような気がする。子どもたちの世界は今、殺伐としている。こういう場をきっかけとして、もっと夢のある世界があるということ、建設を待たずして今からやってほしい。	熊野	B	
【ネットワークについて】				
30	コア機能、インデックスといった他の施設との連携を強化することが大切である。	四日市	B	新博物館では、県内博物館のネットワークの中核的な役割を果たすため、県内の博物館や関係機関との役割分担の体制を構築することとしています。資料情報の共有なども含め、県内博物館と協議をしつつ、具体的には、基本計画の中で検討していきます。
31	地域の若い人を育てていくことを国も考えているが、これからは地方の時代なので、地域のものをつなげる工夫をしてほしい。	伊賀	B	
32	ネットワークでいうと山梨県の地域インデックスコーナーのように、ネットワークを中心にした情報センター的なものに力点を置いてほしい。四日市の環境センターのインタープリターとか、宮川流域案内人とか語り部の会とかいろんなグループのネットワークの核となる施設、モノだけでなく人的なネットワークの施設であってほしい。	伊賀	B	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
33	「みえの博物館のネットワーク」が気になった。センター博物館という概念がこれからは大事である。センターが情報源としての核になってほしい。そこからアピールも出来ればよい。博物館の中に旧の4つの国がブースとしてあって、県民参画の形で、おらがまちが大好きで情報発信ができる方が常駐して、そこに行けば地域の方にふれあい、直接やりとりができるようなセンターであればいいと思う。	伊賀	B	
34	三重で多くのアマチュアが活動している。そういうアマチュアの手元にもたくさんのデータ、資料標本がある。そういう人が集まって語れる場所がない。県立博物館が以前はその役割を果たしていたが、今は十分と言えない。	熊野	B	新博物館は、県民のグループや団体、諸機関・諸施設との連携や、県内博物館とのネットワークを構築し、人や地域の交流を広げること、またこれにより、博物館の活動を県内全域に広げていくとともに、三重の自然と歴史・文化の資産およびその情報を保全・継承・活用するための中核的な拠点として機能することをめざします。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
35	大阪の自然史博物館はサークルの方が集まって情報交換できる場となっている。その辺のネットワークも考えていただきたい。	伊賀	B	
36	FAXでも、2,3台でなくたくさん何台も入っている方が、機能的に上がる。津市に一つ作って終わりではなく、各館を結んで相乗効果をはかるべき。各地の博物館では人的パワーが少ない。専任の学芸員やキュレーターが果たしてどれだけのいるのか？充実が必要である。	熊野	B	
37	ネットワークの中に上手に組み込み、博物館が地域のまちづくりのサポートもしてほしい。例えば世界遺産の熊野古道で、古道センターやフィールドや文化資産を活用していったらどうか。	熊野	B	新博物館は、県内の博物館ネットワーク(「みえの博物館ネットワーク(仮称)」)の中核として、県立博物館でしかできない役割を果たすための取組を推進し、そのために、県内の博物館とパートナーシップに基づく役割分担を行うとともに、人材育成や技術支援などに取り組むこととしています。 また、新博物館は広域の拠点であるとの視点から、博物館活動を地域の活性化や文化振興に結びつけるために、博物館内のみならず、県内全域をフィールドとして、活動を点から面へと広げていくこととしています。
38	松阪以南には展示イコール収蔵庫となっている博物館が多い。人員も退職した高校の先生がやっていたりする。県内の収蔵資料のデータベース化で、県からフォーマットをわたして収蔵品の調査資料をくださいと言ってもその体制では難しく、人的にも県のバックアップが必要である。	熊野	B	各市町の博物館やまちかど博物館との連携・支援、県民のグループや地域の団体と連携してのまちづくりの活動等についても、努めることとしています。具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
39	ネットワークの中で、まちかど博物館のことをピックアップしてとらえているか。	熊野	B	
40	施設が立派に越したことはないが、それより中の資料、人材が大切である。しっかり考えてほしい。地域にも貴重な資料があり、人材がいる。活用できるようなシステム作りを考えてほしい。	熊野	B	平成20年度に策定する基本計画の検討のなかでどのようなことができるかについて考えていきます。
41	各地にテーマ博物館をいくつか作るとともに津にセンター博物館を作って、それらを充実させていくことはどうか。	伊勢	D	過去の検討の経緯や現在の県の財政状況から考えて、各地にテーマ博物館をいくつか作ることは困難と考えますので、ご理解をお願いします。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【収集・収蔵機能について】				
42	資料が他県等へ流出しないよう、受け入れ体制を整えてもらいたい。	四日市	B	<p>「みえの博物館ネットワーク(仮称)」の中核的な役割を果たす県立の総合博物館として、資料の収集・収蔵の方針を定めて、現地保存を原則とした県内の自然と歴史・文化の資産の記録、保存及び収集・収蔵のための活動を行うこととしています。</p> <p>具体的には、ご意見もふまえ、どのような方針にするか、またどのような活動を行うかについて、基本計画の中で、検討していきます。</p>
43	個人の収蔵物が県外へ流出している状況がある。	伊勢	B	
44	伊賀にも古い資料がたくさんあるが、散逸していくのを目の当たりにしている。	伊賀	B	
45	学校などで保存している標本もあるが、担当している先生が異動し、専門分野が変われば、資料が分散してしまうこともある。そういう資料を管理できるのは博物館だけである	伊賀	B	
46	他県では、廃校を活用している例もある。個人で収集した資料の行き先を考えてもらいたい。あそこに行けば見られるということも含めて考えてもらいたい。	四日市	B	
47	ネットワークを考えていくときにも、例えば、本物として各地域にあるものをどこまで県立博物館では所蔵するのか、どこまでの部分はその地域の特性を生かした博物館で所蔵するのか、そういうことも含めて考えてほしい。	津	B	
48	現地保存主義については、伝承、方言といった民族学的な要素で、無形文化財的なものについても、「総合」ということで考えてもらいたい。	四日市	B	
49	希少生物を保全するためのセンター的な機能を持たせてほしい。	津	B	
50	地域のフィールド、自然を守る活動を入れてほしい。	伊勢	B	
51	伊賀にあった個人の1万点ほどの化石標本が、場所がなくて、今、琵琶湖博物館に置かせてもらい、調査してもらっている。本来伊賀で展示したいという気持ちがあった。博物館ができれば何とかしたいと思っている。	伊賀	B	
52	産業とつなげた文化と言っているが、丸山千枚田も棚田ということでひとつの文化資産ではないか。林業でも「なすびすくり林業」というものが五郷町で伝えられてきた。これらも文化的な資料として残せるのか。	熊野	B	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
53	現博物館は、建物がお粗末である。新博物館は展示室だけでなく、保管のための空調も含めて、しっかりした収蔵庫を作ってもらいたい。	四日市	A	現博物館の収蔵資料および今後の博物館活動で収集する資料を安全かつ確実に保存できる、堅固で十分な広さのある収蔵庫の確保に取り組むこととしています。(第4章(1)) なお、具体的にどのような収蔵庫を作るかについては、基本計画の中で、検討していきます。
54	ある程度の収量を収蔵できる建物は、絶対必要である。	津	A	
55	まず博物館の博物館たる役割をきちんと果たせるだけの建物なり収蔵があって、そのあと県民参画も花を開くと思うので、ぜひともある程度の建物、ハコモノを作っていたきたい。	津	A	
56	資料の収集に力を入れるとともに、広くてしっかりとした収蔵庫を作ってほしい。収蔵庫がすぐに一杯になるということは、他県の博物館を見ても明らかである。	伊勢	A	
57	今の県博にも資料を収めているが、なかなか利用できない。新しい博物館は、十分な収蔵能力を備えてほしい。	伊賀	A	
58	人文系の資料については、各地域に郷土資料館などがあって、まだ収蔵場所が確保されている。自然系については、県立博物館の収蔵庫もそんな状況にない。収蔵保管の施設を作ってほしいと切に願う。三重県のを三重県できちんと保管できる施設を望む。	熊野	A	
59	公文書館は、必ず設置するとともに、後世のために、しっかりした収蔵庫を作ってほしい。	伊勢	A	
60	田川知事時代からの収集物も、かなりの量があると思う。これから収集しなければならない自然の資料もある。収蔵庫として、どのくらいの規模を考えているか。	熊野	B	
61	資料の現地保存主義は分かるが、それをどのように県として支えられるのか。県の役割として、何が出来るのか。	伊勢	B	
62	博物館で所蔵している絵画はあまり展示される機会がないので、県立美術館へ保管替えをしたらよい。県民の財産になるようなものは、もう少し心がけて、県民のためにるように活用していく、そういう精神を県職員は持っていたきたい。	津	B	
63	平成5年頃、県立博物館の職員が、県内の資料で個人も対象にしてデータベースを作りたいと、自分が持っている化石の資料についても調査に来られたが、その結果がどうなったか教えてもらっていない。そのときのデータベースが残っているならば、個人収集資料の状況調査の参考にしてほしい。	熊野	E	調査結果を、今後の参考にさせていただきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【展示・情報発信機能について】				
64	実物、本物を見せることによって、それを見た人が、言葉だけの説明では受け取れない何かを受け取れる。それが、博物館の大きな基本的な機能ではないか。そのためには、それなりの収蔵庫あるいは展示室がどうしても必要である。	津	A	本物には、つくりものにはない迫力や魅力があり、来館者にはできるだけ本物を見ていただきたいと考えています。しかし、資料保存の観点から限界もありますので、資料の保存と活用のバランスに配慮した展示のあり方について、検討する必要があります。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
65	今県立博物館が移動博物館をやっており、本物を持って各地域を回っているが、やはり現物を見せるということは非常に重要である。	津	B	
66	魅力的な展示にしないと、人は寄ってこない。	津	B	新博物館の展示では、固定的でない魅力あふれる展示活動を推進することとしています。これは、いつ行っても変わりのない固定的な常設展示が展示の中心を占める従来型の博物館展示にこだわらず、多様な三重の魅力をさまざまな側面から柔軟に紹介しようというものです。 具体的には、ご意見もふまえ、基本計画の中で検討していきます。
67	学校から行って、毎年同じ展示物が展示されているようではいけない。何年かごとにリニューアルをする。また、移動展示にも力を入れてほしい。	伊勢	B	
68	琵琶湖博物館に孫を連れて行くと、自然系の体験展示を見ていて、人文系は見向きもしない。化石、恐竜、ロボット、昆虫などに子どもは興味を持っており、そういうものをメインにしないと子どもたちは足を運ばないのではないかと。子どもはパソコンがあると、必ず開いてゲーム感覚でクイズをやったりして、知識を得ていく。子どもたちが興味をもって、また来たいという構想にしないといけない。	伊賀	B	
69	博物館は生涯学習施設で、老若男女が親しむもの。一つの分野に絞るのでなく、展示室ごとに対象を絞ってもいいのではないかと。ディスカバリールームみたいなものがあれば、自分が興味のある展示を見れる。	伊賀	B	
70	センター博物館構想の時に、鉱物標本を県立博物館に寄贈したが、展示されずにそのままになっている。植物標本にも、そういう資料がある。寄贈された自然分野の資料を大切に、県民に見せてもらいたい。	伊勢	B	
71	万古焼と伊賀焼の両者について、歴史的なことが分かるようなコーナーが博物館の中にできれば期待している。朝日町で古万古のかまどが発掘されたが、予算の関係で埋められてしまい残念。掘り起こして展示できれば、博物館の事業の一つとなるのではないかと。	伊賀	B	三重の特徴や素晴らしさを概観できる基本的な展示機能を確保するとともに、多様な三重の魅力を様々な側面から柔軟に紹介する展示活動をめざすこととしています。 具体的には、ご意見もふまえ、基本計画の中で、検討していきます。
72	県内外からの客などにターゲットを絞って考えるのもいいと思う。参宮のついでに、伊勢にもあるいろいろな文化(織物、工芸、踊り、国学…)について、テーマを決めて見てもらうのもいいだろう。	伊勢	B	
73	まちかど博物館の館長さんの長年のコレクション、こだわり、地域への思いを見ていて、高いレベルの専門家の研究材料となる資料ばかりでなく、気軽に楽しめるスペースの確保も大事ではないかと思う。	熊野	B	県内外の博物館等と連携して館外展示を行うなど、県内の博物館がもつさまざまな資料や情報を、県内はもとより広く全国に公開することで、三重の魅力を内外に発信する拠点となることとしています。 また、多様な三重の魅力をさまざまな側面から柔軟に紹介する生きた展示活動をめざすとしています。 まちかど博物館の収蔵する資料の展示をはじめ、気軽に楽しめるスペースの確保について、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
74	インターネットが発達していて、神奈川県や千葉県の博物館はホームページ上に参考になるものがたくさんあり、検索して簡単に勉強できる。作るのは大変だが、三重県でも是非お願いしたい。	伊賀	B	県内の博物館や関係機関と連携して、ネットワークを活用した博物館情報の発信システムなど、効果的な情報発信のあり方を検討することとしています。 ホームページの充実をはじめ、情報発信機能の充実について、基本計画の中で、具体的に検討していきます。
【閲覧・レファレンス機能について】				
75	問い合わせ対して、アドバイスや支援をしてもらえる博物館となってもらいたい。	四日市	B	県民の誰もが、博物館の収蔵資料をその背景にある三重の自然と歴史・文化の情報とともに学習・研究できるようにするために、資料の保存と活用のバランスにも十分に配慮した上で、資料の閲覧をできるしよみの整備に取り組むとしています。 また、県民に対し、求められている資料や情報源を提示したり、質問に回答したりするレファレンス機能についても、積極的に取り入れることとしています。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
76	素案にレファレンスという言葉が使われているが、誰にでも分かるような言葉を使ってもらいたい。	四日市	A	レファレンスは、「参照、照会、問い合わせ」などと訳されます。通常レファレンスという言葉を使うことが多いと思われるので、用語の意味を本文脚注として、ページの下欄へ設けました。(第2章)
77	図書館ではできない、博物館でしかできないようなレファレンス機能は、ぜひ残してほしい。	津	A	公文書館を一体的に整備することにより、閲覧やレファレンスの機能を展示機能と並ぶ重要な機能として充実させ、これまで以上に収蔵資料を活用できる取組を進めることとしました。
78	県内の個人で貴重なコレクションを持っている方がいるので、それをデータベース化して閲覧できるようにすれば、輪が広がる。	津	B	新博物館では、収蔵資料のデータベース化をはかるとともに、県内の博物館や関係機関と、それぞれの収蔵資料のデータベースを共有できる体制の整備をめざすこととしています。 資料の収集・収蔵の方針を策定することとともに、個人のコレクションについてもデータベース化するかどうかについて、具体的に、基本計画の中で検討していきます。
【公文書館(機能)について】				
79	収支を度外視しても、県としてやらなければならないこともある。公文書館は、市町村合併などで散逸が懸念されるので、こうした分野については、県がやらなければならない。	四日市	A	公文書館は展示機能に重点を置く博物館に対し、歴史的資料としての価値がある公文書等を保存・活用するための拠点であり、特に閲覧・レファレンス機能に重点が置かれているところに特色がありますが、歴史資料を対象とすることや、資料の調査・研究、展示、講座などの教育・普及活動を行うなど、博物館と類似性の高い機能を持つ施設といえます。
80	公文書館は図書館に持っていった方がいいのではないかな。	津	D	県では、新博物館と一体整備し、公文書館の持つ閲覧・レファレンス機能を積極的に取り入れることにより、より県民に開かれ、博物館・公文書館といった枠組みにとらわれない新たな「文化と知的探求の拠点」の実現をめざすこととしています(第2章)ので、ご理解をいただきますようお願いいたします。
81	公文書館は、新しい図書館等の整備として考えられないかな。	津	D	
82	古文書・公文書等は、歴史の資料ということで斎宮歴史博物館へ持っていったらどうか。	伊勢	D	



# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【県民参画機能について】				
83	三重大学を退職した教官に、博物館活動について協力してもらうように呼びかければ、かなりの即戦力となるのではないかと。	津	B	三重の豊かな自然と歴史・文化の資産を適切に保全・活用するために、県内外の他機関(博物館・大学等)との共同研究や、県の関係機関や地域の研究グループ・団体等と連携した調査・研究、記録、保全活動を活発化させることとしています。 また、収集・収蔵、調査・研究、展示などの博物館活動全体において、県民の参画を得ながら進めることにより、博物館活動の幅を広げていくこと、自然愛好会や郷土研究会などの地域の研究グループ・団体なども連携し、三重の自然と歴史・文化の保全や調査・研究などの活動を活性化させることとしています。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
84	県民の力を活用するとともに、研究者から初心者まで、みんなが学べる施設にしてほしい。	伊勢	B	新博物館は、県民とともに成長する博物館を最も大切にしたいこととして、県民参画型の博物館を実現するために、収集・収蔵、調査・研究、展示などの博物館活動全体において、県民の参画を得て、博物館活動の幅を広げていくこととしています。 まず学習支援機能をとおり、サポートスタッフ活動などへの参画を促し、県民一人ひとりの興味や関心に応じて、博物館資料の整理作業や、調査・研究活動、展示活動などの博物館の活動への参画を得る取組を推進します。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
85	三重の県博にはサポートスタッフの制度があるが、大阪市立自然史博物館は市民参画が進んでいて、それよりもっと気楽に関われる友の会がある。未分化の博物館が好きなきな人を集め、それがだんだん分化していつてうまくいっている事例である。県民参画もはじめから100%は無理で、オープンする時に全部できている状況を目指すのではなく、だんだん進化していく博物館という考えで進めていけばいいのではないかと。	伊賀	B	新博物館は、県民とともに成長する博物館を最も大切にしたいこととして、県民参画型の博物館を実現するために、収集・収蔵、調査・研究、展示などの博物館活動全体において、県民の参画を得て、博物館活動の幅を広げていくこととしています。 まず学習支援機能をとおり、サポートスタッフ活動などへの参画を促し、県民一人ひとりの興味や関心に応じて、博物館資料の整理作業や、調査・研究活動、展示活動などの博物館の活動への参画を得る取組を推進します。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
86	学芸員とボランティアとの関係は難しい。サポートスタッフがいるが、サポートだけではいつまでも続かない。学芸員がまずしっかりあって、ボランティアが補完関係にあってはじめて継続的な活動ができる。	津	B	県民参画型の博物館を実現するために、サポートスタッフ活動などへの参画を促し、県民一人ひとりの興味や関心に応じて、博物館資料の整理作業や、調査・研究活動、展示活動などの博物館の活動への参画を得る取組を推進することとしています。 継続的な活動をしていくため、学芸員とボランティアの関係、役割分担等について、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
【学習支援機能について】				
87	新しい博物館は、どれくらいのレベルのものにしていくのか。市民や県民が学ぶ程度か。	伊勢	B	県民が主体的に学び、自己実現を果たすことができる生涯学習の拠点となるために、これまでの教育・普及の枠組みではなく、学習支援の観点から、誰もが気軽に訪れ、交流する中で、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供することとしています。 また、県内外の他機関(博物館・大学等)との共同研究や、県の関係機関や地域の研究グループ・団体等と連携した調査・研究、記録、保全活動を活発化させることとしています。 どのような学習支援を行っていくか、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
【人材育成機能について】				
88	熊野にもまちかど博物館がたくさんあるが、感心するのは館長さんが一生懸命説明してくれること。人材育成が大事である。モノに対し、どう人が語るかである。	熊野	B	県民参画型の博物館活動を通じて、県民が、三重の自然と歴史・文化の資産を保全・活用し、地域の文化振興の担い手として活躍できるよう支援するとともに、県内の博物館等のスタッフの育成や技術支援など、人づくりの取組を積極的に行うこととしています。 具体的には、基本計画の中で、検討していきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【新博物館の施設について】				
89	建物は、格調の高いものとしてほしい。	四日市	B	
90	大阪市立自然史博物館は博物館の施設自体が長居公園の中にあり、市民の憩いの場となっている。植物にも札がかかっている植物資源の体験学習も簡単にできる。三重の自然・歴史が生かせる憩いのエリアを作ればどうか。	伊賀	B	施設については、県民参画型の博物館であることを基本に据えて、博物館機能に必要な施設規模を確保しなければなりません。特に県民の活動・交流エリアや閲覧・レファレンスエリアの設置など県民参画が活発に行われるような施設構成とする必要があるとしています。 ご意見もふまえ、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
91	昔は子どもを外に連れて行き、自然に親しませる臨海実習があったが、今はできる場所も確保しにくく、あまりされていない。博物館の出店として臨海実験場のようなものを作ってほしい。	伊賀	D	現在の県の財政状況から考えて、県が新博物館を建設したうえで、さらに臨海実験場のようなものを作ることは大変困難と考えます。他の機関との連携の中で検討することとして、ご理解をお願いします。
【立地場所について】				
92	アクセスの点については、利便性と地球温暖化のことから、公共交通機関で行ける場所としてほしい。	四日市	A	新博物館の性格・機能などから求められる施設構成を明らかにした上で、建物と敷地の規模をお示しました。こうした施設と敷地面積を備えた立地場所を特定するにあたって、
93	総合であるのであれば、博物館の近くに自然とふれあえるフィールドがある立地場所を考えるべきである。	四日市	B	県の文化振興の拠点である図書館、美術館、文化会館、生涯学習センターが連携により総合的に機能を高めていくために、連携しやすい場所へ立地すること 三重の文化振興の中核的な役割を果たすため、県内のさまざまな文化振興拠点との連携や県内の大学等との連携が可能な場所へ立地すること 県民誰もが利用できるために、公共交通機関や幹線、周辺道路が整備されたアクセス性の高い場所に立地すること
94	立地場所については、クルマでないと行けない場所ではなく、公共交通機関を考えた便利な場所にしてほしい。それが、リピーターの確保にも繋がる。	四日市	A	円滑に整備を進めるためには、取得の容易な土地で、建物のほかに駐車場や野外のフィールド等も考慮して、3ha以上を確保できること
95	駅からの利便性はよいが、駐車場がとれないため、小学校がバスで行けないというような博物館がある。駐車場についても考慮することが必要である。	四日市	A	を必要な立地条件として設定し、これらの条件を満たす候補地をいくつかあげて検討した結果、「県総合文化センターの南東側に隣接する場所」が最も適していると判断しました。(第5章(2)、(3)、(4))
96	博物館をどこに建てるかについては、例えば、近くに県立図書館がある場合、そこに公文書館的機能を持たせれば、そこで十分必要な情報を得ることが可能になる。今後、どこの場所に博物館を設定していくのかということも大事な要素になる。	津	A	なお、県内博物館のネットワーク構築の推進をはじめ、館内のみならず県内全域をフィールドとして活動を点から面へと広げていく「地域活動機能」を重要な機能の一つとして位置づけています。
97	立地は、県民懇談会の県内5ヵ所どこでも、「うちが一番いい」という意見が出るだろう。それは、県が多様な地域文化を持っているからに他ならない。ネットワークもあるが、今ある拠点をどうつなげるか、一方向でなく双方向とする工夫が必要だと思う。	伊賀	A	また、過去の検討の経緯や現在の県の財政状況から考えて、県が各地に博物館をいくつか作ることは困難と考えますので、ご理解をお願いします。
98	場所は県央部で決定か？他の会場でもいろんな意見が出たと思うが。	熊野	E	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
99	立地場所については、収蔵物を保存し継承していくという観点から、地震その他の自然災害の起こりやすい土地は、避けるべきである。他県には、津波等の水害の起こりやすい、低い土地に建っている県立博物館がある。	伊勢	A	(前頁と同じ)
100	新聞等の報道によると、立地については、津市で固まっているようにも思えるが、素案に示されている立地の条件に、伊勢はびったりである。候補地として、伊勢を挙げてほしい。	伊勢	D	
101	県は、南北格差の是正と言うが実際には、あまり取り組まれていない。博物館を伊勢地域に建てることで、格差の解消につながるのではないか。	伊勢	D	
102	県内各地からアクセスしやすい土地として、県中部が挙げられているが、本当にそうなのか？現在の県立博物館は、津市にあっても、限られた人だけが利用している。地域に魅力があり、他にも見どころがあるところに博物館を建てる方が、来館者が増える。	伊勢	D	
103	「他機関と連携しやすいところ」と書かれているが、これは、管理側の都合で言っていることで、その都合で考えるなら、将来的にも、博物館が利用されないという状況は、同じである。利用者主体で考えていない。通信手段が発達しているのだから、管理運営は、どこでもできる。	伊勢	D	
104	厚生年金休暇センターの跡地を利用してはどうか。	伊勢	D	
105	立地は、駅前や外宮の近くではどうか。	伊勢	D	
106	三重県の文化は、太古から伊勢湾が文化の根底となっている。志摩半島から桑名の間で博物館を作るのがよい。	伊勢	D	
107	観光客等外部の人がお金を落とし(使い)、全体として県の力を上げるために、伊勢で考えてほしい。	伊勢	D	
108	昔から「伊賀に県政なし」と言われているように、伊賀には県立の施設がほとんどなく、津市に偏っている。素案には「県中部」とあるが、津に決まったのか？昔から、伊賀に博物館が欲しいと思っている。	伊賀	D	
109	津に作る決めるのではなく、北勢・伊賀・南勢にも大きい博物館が一つあって、大型展示がいつでも見れるといい。	伊賀	D	
110	早くから伊賀に博物館を作りたいと要望してきている。議会に対しても、伊賀に博物館の分館を作りたいと要望を出したこともある。	伊賀	D	
111	他の機関を先に伊勢側へ置いておいて、「連携しやすい」というのはどうか。	伊賀	D	
112	平均的には県中部は便利だが、伊賀や東紀州からは遠い。昔はどここの県でも県博へ行けばその県のことがだいたい分かるというオーソドックスな感じだったが、これからは、特定の目的を持ってくる人が増えてくるし、そうあるべきである。分館なり本館なりを伊賀に建ててほしい。	伊賀	D	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方	
113	伊賀では、昭和40年代から伊賀に博物館を、という運動をやってきた経緯がある。津へはなかなか行けなかった。単なる地域工ゴではない。伊勢の人も、伊賀へ来る何かがあればよい。我々もお木曳きがあれば、伊勢へ行く。そういう交流施設になればよい。	伊賀	B	(前々頁と同じ)	
114	地元を持ってきてほしいというのは、100人が100人とも考えることであって、自身は津でよいと思っている。	伊賀	E		
【館長・学芸員について】					
115	総合博物館としてフィールドが大切であり、それに必要な学芸員を確保してもらいたい。	四日市	A	学芸員については、専門的な能力だけでなく、県民参画型の博物館を運営し、県内の博物館や、他の文化振興拠点の人材育成・技術支援ができる能力、また連携のために必要なコーディネ-ト能力も併せもった人材を計画的に確保・育成していくこととしています。 具体的には、ご意見もふまえ、基本計画の中で検討していきます。	
116	学芸員については、開館と同時に集め始めては遅い。計画的に確保して行ってほしい。	伊勢	A		
117	博物館に足を運んでくれるような環境づくりや、施設のあり方が、これからの教育の中では非常に大事だと思う。そういう意味で、学芸員の質が非常に重要なポイントになってくるのではないかと。	津	A		
118	各地は各地の博物館で活動してもらい、県は中央として専門的なサービスをするところであると思うので、学芸員は幅広い知識を持った人を置いてもらいたい。	四日市	B		
119	琵琶湖県立博物館の学芸員のレベルは高い。新博物館も、コストを考えずにこうしたレベルの高い学芸員を置いてもらいたい。	四日市	B		
120	大学で勤められるくらいの程度の専門性をもった学芸員を確保すべきである。	伊勢	B		
121	博物館が収蔵する「宝」を残していくこと、それを学芸員が研究することが、博物館の使命である。	四日市	A		
122	博物館活動の中核となる学芸員は、県職員の身分とすべきである。民間を入れる場合は、あくまで補完的な役割とすべきである。	津	B		ご意見の趣旨を今後の参考とさせていただきます。
123	学芸員の人数と質(力量)の確保の必要性を強く感じる。県立博物館で同定会を行う時に、外部の人が協力しているが、やはり学芸員が対応すべきと思う。それを外部の人(県民)がサポートするのがよい。	伊勢	B		学芸員については、専門的な能力だけでなく、人材育成・技術支援ができる能力、また連携のために必要なコーディネ-ト能力も併せもった人材を計画的に確保・育成することとしています。 質の高い学芸員の確保、学芸員とボランティアとの役割分担を含め、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
124	人材、学芸員を育ててほしい。館長が県職員の天下り先とはなってほしくない。	伊賀	B		ご意見の趣旨を今後の参考とさせていただきます。
125	建物を建てても今、人件費を削られがちである。民間とともに動かすということだが、学芸員などの核となる人がまずいてこそ動かせる話。ソフト面を重視してほしい。	伊賀	B	学芸員については、専門的な能力だけでなく、人材育成・技術支援ができる能力、また連携のために必要なコーディネ-ト能力も併せもった人材を計画的に確保・育成することとしています。 また、持続可能な博物館運営を行うために必要な博物館活動のあり方や維持管理の考え方に基づき、組織・人材・運営費など施設運営の基本的な考え方について、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【管理・運営について】				
126	素案の5博物館施設の整備の考え方や、6博物館の管理運営の考え方が、博物館を考えていく上で大切である。さまざまな運営形態が考えられるが、研究部門とかコアとなる部門は、県が直営で行うべきである。他の部門は、NPOとかボランティアを組織的に考えるとかできるのではないか。	四日市	B	さまざまな人びとが博物館活動に携わる組織とすることにより、博物館と県民を結びつける企画や情報発信を活性化させるなど、博物館活動の質を向上させるとしています。 また、県民参画の視点をもつとともに、効率的かつ長期的・持続的な博物館活動ができる運営体制を確保するとともに、PFI や指定管理者制度 などの導入の可否については、中長期的な観点から継続的な運営の確保を前提として、部分的な導入も含めて、専門家を交え多角的に検討することとしています。 ご意見もふまえ、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
127	PFIや指定管理者制度について、博物館は長期的、継続的に地域の文化や自然の有様を収集・保存・調査研究してその活用を図っていくことが大事で、短期的に運営主体が交代するような体制は、あまりそぐわないのではないか。	津	B	
128	指定管理者の問題は、博物館というのは三重県の知能の部分で、根幹に関わる問題だと思うので、慎重にしていきたい。	津	B	
129	重要文化財のような貴重な資料をもっている博物館でも、あまり人が入っていないところがある。人を呼び込むためには、工夫が必要である。	伊勢	B	開館までにイベントやシンポジウム等、さまざまな機会を設けて、新博物館整備に対する県民の理解と協力が得られるよう努めることとしています。開館前から積極的なPRを行い、人を呼び込むしていくことが必要と考えられますが、具体的には、基本計画の中で、検討していきます。
【評価について】				
130	利用者の観点から、県民が評価できる博物館としてもらいたい。	四日市	C	常に博物館活動を振り返り、県民の立場に立った適切な運営が行えるようにするために、自己評価システムだけでなく、外部評価システムの導入についても検討することとしています。 設定する目標や評価の仕方等を含め、具体的には、今後、検討していきます。
131	どれだけの人に利用されたのかということが大切であり、他県の例では、何人程度利用されているのか。	四日市	C	
132	最近の博物館は、入館者数の増加を目標にしているが、本来は、モノ主体の施設で、入館者数を目標にするのは、おかしいと思う。	伊勢	C	
【建設費・事業費・運営費について】				
133	市の博物館の例では、年間運営費にかなりの金額がかかっており、一方で入場料は無料としている。ランニングコストについても、しっかりと検討すべきである。	四日市	B	運営費の概算については、ご意見もふまえ、基本計画の中で検討し、明らかにしていきます。
134	新博物館に建設について、いくらぐらいの予算を考えているのか。	四日市	E	建設のための概算事業費については、基本計画の中で検討し、明らかにしていきます。
135	前回の博物館を作る話も凍結された。今回はどうなるのか？財源はどうするのか、どれだけ投資できるのか、県民の合意が得られるか。やるならやるで、長期ビジョンもあわせて考えていかねばならない。	伊賀	B	基本計画において、施設の詳細、概算事業費、財源、スケジュール等について明らかにしていきます。今後とも、県民の皆さんや県議会で理解を得ながら、設計、建築へと着実に取組を進めていきます。
136	素案をそのまま進めていけば財政的にもかなりの規模のものになり、また財政的理由でだめにならないか懸念している。	熊野	B	
137	財政難の状況で、何を要望しても切り捨てられる状況であるが、博物館については、借金をしてでも建ててほしい。	伊勢	B	
138	建設には財政的に相当のものがいると思うが、頑張ってもらいたい。内容を充実するために、予算をしっかりとってほしい。	熊野	B	
139	博物館の建設計画については、過去2回、財政難ということで頓挫した。今回の計画について、実現できる可能性はどれくらいと考えるのか。	伊勢	E	

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【現博物館について】				
140	「今、県立博物館は閉じられていますが」、で片付いてしまうのが問題。一時的に展示室を設けることなども早急にやっていただきたい。まずは空白期間を設けないための策をやってほしい。	津	C	現博物館は、老朽化に加え、耐震上、来館者の安全を確保するため、昨年10月に展示室を閉鎖しましたが、県民の皆さんのご相談等にお応えするレファレンスサービスなどは、博物館木造棟で行っています。来年度については、市町教育委員会や博物館とも連携しながら、移動展示を進めることとしており、また、博物館教室やフィールドワークなども引き続き行い、博物館機能を極力低下させないよう努めますので、ご理解いただきますようお願いいたします。 なお、新博物館が開館するまでの対応については、基本計画と並行して検討していきます。
141	現在、博物館が閉鎖中である。新しい博物館ができるまで、現博物館の活動を含め、どのような活動をしていくのか。	伊勢	C	同上
142	今の博物館は展示室が閉まっているが、自然系の資料にも日本に誇れる資料があると聞いている。今あるものを踏まえ、次に生かせるようにしてほしい。	伊賀	A	現博物館の収蔵資料については、きちんと保存し、新博物館の中で生かしていけるよう検討していきます。
143	現在の県立博物館は、展示室も閉鎖され非常に残念な状態である。これまでの整備検討もつづれて、最悪の状態に陥っている。ないものを新設するより、老朽化に伴う改築・新築こそ早急にやってほしい。博物館整備は現知事の公約であるが、知事が変わったりしてまた反故にされないか心配している。期待したことが、県民の意見も聞かず一方的に裏切られないか。	熊野	D	新博物館の目的や機能を十分に発揮させるには、一定規模の施設や敷地、利用者が快適に利用でき、くつろぐことができるスペースの確保も見込んだ施設規模が必要で、このため、おおむねの施設規模としては、建物面積12,000～18,000㎡程度、敷地面積については、3ha以上を確保することとしています。 現博物館は、必要とする機能を十分に発揮できる施設とはなっていないことや、都市計画法及び建築基準法等による制限により、現在地での増改築が困難なため、博物館を新しく整備することとしています。 なお、現博物館施設の活用については、ご意見もふまえ、今後検討していきます。
【文学・文学館について】				
144	公文書館だけでなく、文学館も大事。今度の県立博物館をとらえる視点としては、出来上がったならそれで終わりではなく、それが出来た後、そこからどう分化し増殖していくかという発想が必要である。その発想があれば、公文書館や文学館への道が開ける。	津	B	同上
145	今の財政の中で立派なハコモノを建てたり、いくつかに分割して建てることは大変と思うが、何年か先にこういうふうにしていくという全体像が明らかにされたら、展望が持てる。人間が生きてきた歴史的なものや文学的なものの収集も大事で、文学に関する生き方についての資料もかなり必要である。何年か先の博物館の全体像を考えながら、当初は収蔵庫をどうするかということを示してほしい。	津	B	文学に関する資料についても、公文書館の一体的整備や図書館との連携等のあり方を検討する中で、検討していくことが必要と考えています。
146	文学の要素を取り入れてほしい。受け皿として博物館を早く作らないと、資料が四散していってしまう。	伊賀	B	新博物館は、県内博物館のネットワークの中核として、資料の収集・収蔵の方針を定めて県内の博物館や関係機関との役割分担の体制を構築し、散逸や消滅の危機にある県内の自然と歴史・文化の資産の記録・保全・および収集・収蔵のための活動を行うとしています。 具体的には、ご意見もふまえ、基本計画の中で検討していきます。

# 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
【文化審議委員について】				
147	委員の中に自然史の方が入って、この素案を作られたと思うが、どのような方が委員として入り、討論されたのか。	四日市	C	県民懇談会等で出されたご意見をふまえ、基本計画の検討部会においては、自然系や人文系の専門家をはじめ、公文書館や博物館経営、建築学等多方面の専門家をバランスよく選定し、より専門的な見地から具体的な検討していきます。
148	文化審議会委員に自然系の人がないが、なぜですか。今後、是非入れてほしい。	伊勢	C	
149	審議会委員に自然系の人がない。自然系も充実させてほしい。		C	
150	素案の中の基本的な性格の(4)に「資料を幅広く活用する」とあるが、公文書館機能のことが一辺倒に書かれており、自然系の資料のことに触れられていない。他の場所では自然系資料の保存収集についても書かれているところもあるが、自然系の委員がないことが欠点ではないか。	伊賀	C	
151	大枠が決まる前に、今の段階から自然系の委員を入れてほしい。	伊賀	C	
152	委員15名の専門分野は何か。男女の数、出身地域はどうなっているか。	伊賀	E	今回は、新しい文化振興の基本的な考え方のもと検討を行うため、文化振興の基本的な考え方を文化芸術分野にとどまらない、さまざまな見地から検討していただけるよう、審議会委員の専門分野は、都市政策・施設設計、教育・生涯学習、文化政策、企業メセナ、食文化などの分野から選任しました。
153	三重には伊勢、志摩、伊賀、紀伊の4つの国があり、各地域でそれぞれ文化が違うが、「三重の文化振興方針(仮称)」の中間案を見ると、「三重の文化の特徴」では「美し国」(=「伊勢」)でひとくりにされている。三重の文化を一枚岩で表層的にとらえるのではなく、個性の違いを際立たせて、県民がその違いを認識できるようにすべきである。今後、委員またはオブザーバーとして、その地域のことを血として肉として身につけた、各地域を皮膚感覚で語れるような人たちを入れるべきである。	伊賀	C	また、新博物館のあり方部会については、博物館の活動や運営に詳しい専門委員として、博物館学の専門家、経済界、県内博物館の館長等を選任しました。 なお、委員構成についてはホームページにも掲載していますので、詳細についてはそちらをご覧ください。
154	地域で活動している人を公募委員として入れてほしい。	伊勢	C	新博物館整備に対する機運を高め、ご理解とご協力を得るため、平成20年度において、多くの県民の皆様にご参加いただき、シンポジウムやイベントを開催するよう考えています。
155	博物館の専門家が集まっても、必ずしもいい博物館を作ることに結びつくわけではない。いろんな分野の委員が集まっているのはいいが、検討会などでは県民から募集するとかして、いろんな人が参加して、機運を高めていくのがいい。	伊賀	C	なお、文化審議会委員及び検討部会の委員については、専門的立場からの検討の他に、県民をはじめとする利用者の立場から検討いただくとして、その選任にあたっては、公募をしませんでしたので、ご理解をお願いします。
【全般】				
156	こうした議論をするためにも、他県の博物館や現三重県立博物館の概要(入場者数、入館料等)は説明してもらいたい。	四日市	E	ご意見をふまえ、今後の開催にあたっては、より充実した内容となるよう努めていきます。
157	博物館建設というハードと、博物館機能のソフトを分けて議論すべき。博物館を建て、そこで何をやるのかという基本的な部分をしっかりと考えるべきである。	伊勢	B	ご意見をふまえ、ソフト面からみた機能の整備、ハード面からみた施設の整備、それぞれの充実をめざし、基本計画の中で整理し、検討していきます。
158	新博物館と文化財保護法との整合性をどうとらえるか。今までは、教育委員会で文化財等を所管してきた。資料は大切であるが、生活部になったらどうか。	伊勢	C	新博物館については、生活部(平成20年度からは、生活・文化部)と教育委員会の共管としています。文化財保護行政については、引き続き教育委員会で所管することとしています。
159	素案は立派だが、三重県の名前をつけなくても他でもやれそうなものとなっている。専門家を入れて、もっと具体的に書き直して欲しい。	伊賀	B	基本計画では、本構想に示した考え方に基づき、主に「活動の理念とテーマ」「博物館機能」「事業計画」「資料保存、展示、閲覧・レファレンス、情報発信等の計画」「施設運営計画」「建築計画」について、専門的な見地から検討を行い、具体的な内容にしていきます。

## 「新しい県立博物館についての県民懇談会」意見一覧

番号	項目・内容	会場	対応	具体的な反映状況・考え方
160	県民懇談会を5カ所でやっているが、県民の声を聞いたという、単なるアリバイ作りで終わらないようにしてほしい。	伊賀	E	今後も、県民懇談会などの機会を設け、ご意見を新博物館整備の検討に生かしていきたいと考えています。 なお、開催にあたっては、十分にPRを行って周知を図り、多くの人に参加いただけるよう努めます。
161	今まで博物館の検討をしていることを知らなかったので、もっと県民に知らせてほしい。	伊賀	C	
162	移動展示の考えもあるが、東紀州の人に博物館の情報をどう提供するかも大事。今から博物館を利用する若い人たちは、こういう県民懇談会等の場には来にくいと思うが、そういう人たちの意見も聞いてほしい。	熊野	C	
163	県職員の中にも、専門家や博士号をとっている人もいる。林業、漁業、獣医、文化歴史とか。身近なところの人間も基本計画づくりの際に活用すればよい。	熊野	C	検討の過程において、県庁内の各部へも照会し、専門的な立場からのさまざまな意見についても反映してきました。今後も、庁内ワーキングなど、職員の参画を求めています。
164	県民のひとりとして大きく声を上げてこなかった反省もあるが、県立博物館の現状を見た方は、新しい誇れる博物館の整備が必要だということが分かると思う。是非造って欲しいということを県上層部の方にも伝えて欲しい。	熊野	E	ご意見を生かして、今後の取組を進めていきます。
165	現在、県の総合文化センターの施設は、月曜日が休みであるが、県民の利用の面から、留守番を置いて、簡単な説明や対応が可能としてもらいたい。このため、新博物館では、ボランティアの方の活用や、職員にも若干の余裕をもたして、県民サービスに努めてもらいたい。	四日市	B	県立施設の休館日の扱いについては、今後の運営上の課題としていきたいと考えます。